



西嶋の紙づくり

西嶋和紙工業協同組合

☑ 代表理事…佐野和保

☑ 所在地…南巨摩郡身延町西嶋 391-1

☑ 業種…和紙製造業

☑ 設立…昭和 25 年 2 月 27 日



担当：河野

○西嶋和紙について

西嶋和紙の歴史は、今から 450 年以上前に遡ります。西嶋生まれの望月清兵衛が、現在の静岡県伊豆市でミツマタを原料とした修善寺紙の製法を学び、その技術を持ち帰って西嶋で紙づくりを始めたことに由来します。武田信玄は清兵衛の製造した和紙を大変喜び、紙の役人に任じたことで、西嶋での紙づくりは一層盛んになりました。

当組合は、手漉き業者 5 社、機械漉き業者 2 社の計 7 社で構成されています。手漉きは紙一枚ごとに個性が表れ、機械漉きは効率的な大量生産が可能です。西嶋では両者の良さを取り入れ、産地としての発展を図っています。組合では、後述する原材料の共同生産などの経済事業に加え、絵手紙展の開催や紙漉き体験の指導を通じ、西嶋和紙の技術と文化を次世代へ継承するための多彩な事業を展開しています。

当産地では、書道半紙・画仙紙を中心に和紙を製造しており、原料には故紙と稲わらを用いています。一度漉いた故紙を使用することで、独特のにじみ具合と墨色の深みが生まれます。そののにじみ具合や墨色の発色、筆ざわりは全国の書道家から高く評価され、愛用されています。

近年は、書道用紙以外への商品展開にも注力しています。学校の卒業証書等の注文を組合で受け、組合員で分担して製造するほか、小中学生が自ら紙を漉き卒業証書を作る体験学習も実施。組合員が指導を行い、子どもたちに和紙の魅力を伝えています。今後、県内外の学校に西嶋和紙の卒業証書が広がることを目指しています。また、和紙の原材料に新たな素材を加えて試作するなど、他分野への応用にも挑戦し、和紙の可能性を探っています。



組合のマスコットキャラクター「美漉ちゃん」



組合ホームページ



かみすきパーク

○パルプ生産工場維持のために

組合が行う主な事業は、組合員が使用する原材料（パルプ）の共同生産とパルプ生産施設・公害防止施設の運営管理です。組合が所有するパルプ生産工場には、古紙などを蒸煮・分解する 2 トンの地球釜を含む 2 基の地球釜があり、大量生産が可能です。また、工場には排水を適切に処理する公害防止施設が併設されており、環境保全という社会的責任を果たしながら、安全に原材料を生産することができます。

しかし、公害防止施設のメンテナンスには膨大な費用がかかるため、工場を安定的に維持するにはパルプ生産量の増加が欠かせません。そこで組合では、大型地球釜と確かな加工技術を活用し、「多様な廃材をパルプに加工することで、紙や紙以外の製品に生まれ変わらせる」新たな取り組みを進めています。

他県の製紙業者や大学研究室と連携し、これまで捨てられるはずだったヨシ、バナナの茎、ユーカリなどの廃材をパルプに加工してきました。廃材から生まれたパルプがタオルなどの製品として再利用された事例もあり、廃材活用の可能性の大きさを実感しています。現在は大手食品メーカーと連携し、製造残渣をパルプに加工できるか試験中です。

この取り組みは、廃材を再利用することで SDGs の推進や環境保全につながるほか、当組合の設備と技術を社会貢献に活かすこともできます。今後もパルプ生産事業を拡大して多くのニーズに応え、組合員にとって重要な工場を守り続けていきたいです。

伝統の中で培われた確かな技術を礎に、組合はこれからも書道用紙というスタンダードを継承しながら、新たな可能性を追求し、西嶋の和紙文化を未来へと受け継いでいきます。

組合では「この廃材をパルプに加工できませんか」といったご依頼も受け付けています。ご相談ください。

連絡先：0556-42-3234

お知らせ

2025 年 4 月、「道の駅にしじま和紙の里 かみすきパーク」（旧：西嶋和紙の里）がリニューアルオープンしました。西嶋和紙の魅力を体感できる「かみすき館」では、和紙漉き体験ができるほか、紙にまつわる体験型展示があり楽しく和紙の文化を学べます。